

平成27年度 長岡市・三島郡生活科部 活動報告

部長 小嶋 美江子

1 研究主題

子どもの学びを育む生活科の単元構成や支援のあり方はどうあればよいか

2 研究の概要

長岡市立脇野町小学校の公開授業・協議会への参加を、研究主題に迫る研修の機会とする。

3 研究の実際

4月23日(木) 市教育研究会総会(生活科部会)

会場:青葉台小学校 図書室

内容:組織作り 事業計画づくり 第1回常任委員会

11月5日(木)新潟県小学校教育研究会指定研究「総合的な額種の時間」第2年次発表

会場:長岡市立脇野町小学校

内容:全体説明

1年松組活動公開「アルパカとなかよし」

協議会(活動を通して見えた子どもの良さを共有する協議会)

ミニ講演会

分科会指導者・講演会講師 文教大学大学院教育学研究 教授 嶋野 道弘様



4 成果と課題

生活科分科会での協議、指導から、以下が生活科指導における重要ポイントであることが確認された。

○子どもを肯定的に見る

- ・子どもを捉えることは教育の核心である。子ども1人1人の気付きに目を向け、見取っていくことが重要である。(つぶやきやワークシートによる表現、教師の問いかけ等多様な方法で子どもを見取る)
- ・子どもの気付きは次から次へと出る。それに伴って前の気付きは打ち消されていく。その時、その場で子どもの気付きを言葉や絵で表現できる環境を整えることが大切である。
- ・教師が見取った気付きを、その場で価値付けて自覚化させていくことも必要である。

○動物との適正相互作用の重要性

- ・生活科における動物単元の重要性:子どもたちはアルパカを対象ではなく一緒に仲間として捉え、アルパカの気持ちを考え、行動していた。「アルパカの腹を触る(事実)」→「いやがっている(想像)」→「そっとしてあげる(行為)」と気付きから行動の変化につながった。アルパカを好意的に捉え、想像力(思考力)を働かせ、思いやりをもって対象にかかわる姿であった。

今年度の成果を活かしながら、会員個々が実践や研修を積み重ね、「子どもの気付きを深め、価値ある学びとするための単元構成、支援のあり方」を踏まえた授業改善に努めていく。